

長野県北部牟礼村で自生が確認されたホソバノシバナ (シバナ科)

大塚孝一*・尾関雅章*

近年、観察や標本の記録がなく、「長野県版レッドデータブック—維管束植物編」で絶滅種とされた多年生で単子葉植物のホソバノシバナの自生が、長野県北部の牟礼村内の湿地において、2003年8月に確認された。生育地は、2ヶ所が約30m離れてあり、各々約95個体と約350個体が小面積に生えていた。

キーワード：ホソバノシバナ、シバナ科、絶滅危惧、牟礼村、長野県

はじめに

シバナ科 Juncaginaceae はヒルムシロ科 Potamogetonaceae に近い仲間で、世界に4属20種あり、日本にはシバナ属 *Triglochin* のシバナ *Triglochin maritimum* L. とホソバノシバナ *T. palustre* L. の2種がある。シバナは塩水湿地に生えるが、ホソバノシバナは淡水の湿地や沼の縁に生える多年生の単子葉植物である。ホソバノシバナの葉は細く、長さ10-25 cm、幅約1 mmで、花期は7-8月。花茎は15-35 cmである。北海道と、本州の北部と中部の高地に産し、広く北半球の温帯～亜寒帯に分布する(山下 1982)。

日本でホソバノシバナの生育が確認されているのは、北海道、青森県、岩手県、秋田県、福島県、群馬県の6道県のみで、「環境省(旧環境庁)版レッドデータブック」(環境省編 2000)で、絶滅危惧Ⅱ類に分類されている。長野県に最も近い産地は、群馬県尾瀬ヶ原(群馬県 1987)で、長野県は分布の西南限にあたる。長野県では飯綱原(矢澤 1904)、霊仙寺山(矢澤 1905)、戸隠村戸隠山越水ヶ原(奥山 1954)から記録があった。しかし、以後、観察や標本の記録がなく(清水編 1997)、特に標本としてその存在も確認できない。これらのことから、「長野県版レッドデータブック維管束植物編」(長野県 2002)では、絶滅種(すでに絶滅したと考えられる種)とされた。

長野県自然保護研究所友の会会員で牟礼村在住の橋本君江氏から、牟礼村飯綱東高原の湿地に見慣れない植物があると連絡があり、2003年8月8日に現地を調査したところ、ホソバノシバナであることが

確認された。ここでは、絶滅したとされた植物の自生確認とその生育状況を報告する。

自生の確認と生育状況

2003年8月8日、牟礼村飯綱東高原において、ホソバノシバナの自生を確認した。証拠標本：ホソバノシバナ、長野県牟礼村飯綱東高原(大塚孝一・尾関雅章 s.n., 2003年8月8日, NAC図1, SHIN55400)。

生育地では、湿地の水面近く(図2)やヨシ原の周囲(図3)に生えている。生育地は、2ヶ所(湿地とヨシ原の周囲)で、各々から約30m離れてあった。生育状況について、各々のおよその生育範囲と生育個体数は、約1 m×3 mに95個体と約1 m×7 mに約350個体で、合計約445個体であった。そのうち花茎を持つ個体は、各々32個体(33.7%)と88個体(25.1%)で、合計120個体(27%)であった。小さな個体も多数あり繁殖している様子がうかがえた。

おわりに

ホソバノシバナは、「長野県版レッドデータブック維管束植物編」で絶滅種として扱われたが、今後は絶滅危惧種に相当する植物となる。長野県内で確認されている自生地は、牟礼村飯綱東高原の1ヶ所のみであるため、採取や踏み付けによる絶滅が心配される。現在は、踏み付けされないよう一部囲いが施されている。

また、平成15年3月に「長野県希少野生動植物保護条例」が制定された。ホソバノシバナはこの条例に規定される「指定希少野生動植物」に指定された

* 長野県自然保護研究所 〒381-0075 長野市北郷2054-120

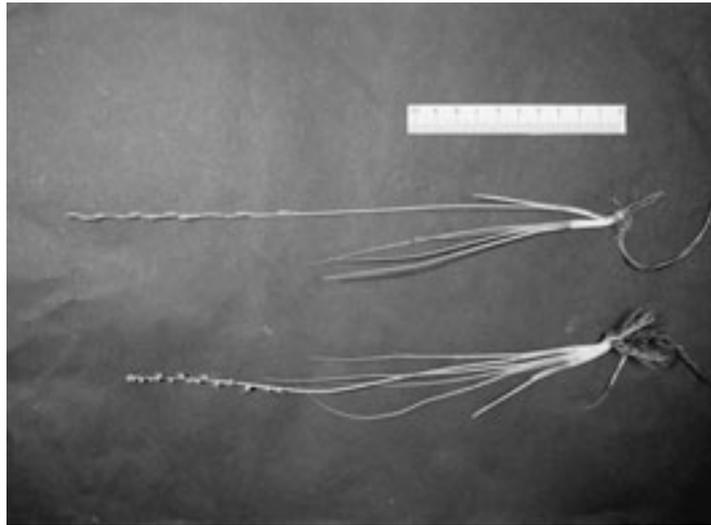


図1 ホソバナシバナの標本



図2 湿地の生育状況



図3 ヨシ原周辺の生育状況

52種類に含まれている (長野県 2004)。

最後に、この植物を発見し連絡をくださった橋本君江氏に感謝の意を表します。

引用文献

群馬県 (1987) 群馬県植物誌改定版, 604pp. 群馬.
環境省編 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある
野生生物, レッドデータブック8, 植物 I (維管
束植物)
長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック—維管
束植物編, 297pp.
長野県 (2004) 長野県希少野生動植物保護条例に基

づく指定希少野生動植物及び特別指定希少野生
動植物の指定 (平成16年2月19日長野県告示第
78号)

奥山春季 (1954) 植物採集覚書 (15), 植物研究雑誌
29:181-185 東京.

清水建美編 (1997) 長野県植物誌, 1735pp, 信濃毎
日新聞社. 長野.

矢澤米三郎 (1904) 植物新産地の見出, 信濃博物
学雑誌12号:129.

矢澤米三郎 (1905) ホソバナノシバナ, 信濃博物学
雑誌17号:422-423, +plate 1

山下貴司 (1982) シバナ科, (佐竹義輔編) 日本の
野生植物 I : p 9. 平凡社, 東京.

Triglochin palustre L.(Juncaginaceae) found from Mure Village, northern Nagano Prefecture

Koichi OTSUKA* and Masaaki OZEKI*

* Nagano Nature Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago Nagano, 381-0075 Japan